

第二十五回企業活性化研究分科会・議事録

<第二十五回 2009年10月17日(土) 時間：13：30～17：00 於：専修大学(神田校舎)>

1. 参加者：山本、井端、木村、古山、渡邊、高市、小林、菅原、宮川、
齋藤、酒井、杉本

2. テーマ：企業活性化に関する研究

3. 発表内容

テーマ：『*継続企業の前提に関する分析(TYPE2)*』

- ・報告者：酒井友也(専修大学大学院)
- ・配布資料：14枚
- ・報告内容の要旨

本報告は、株式会社ソディックの継続企業の前提について分析したものである。同社は、工作機械事業をメインとするメーカーであり、なかでも放電加工機では世界的にも高いシェアを誇っている。同社は、平成14年3月期には営業損失を計上し、平成14年・平成15年3月期と連続して当期純損失となり不安を残している。ところが、平成16年から平成20年3月期にかけては、新規需要の確保を目的として進出した中国を中止とするアジア市場での工作機械の売上や国内における産業機械事業の売上が好調であり一転して黒字企業へと転換した。平成21年3月期において、世界的金融危機の影響により設備投資需要環境の悪化と同時に金型産業の需要低迷により当期純損失を計上している。

同社は、収益性の高い子会社を吸収することで経営環境の悪化に対応していること、さらに景気の影響を受けにくい食品機械事業への進出、新興国市場への進出等の経営計画が評価されたこともあり、継続企業の前提に関する注記は付されなかったものと結論付けている。

4. 今後の方針

今後の方針に関する議論が行われ、以下の2点の提案がありました。

- ・継続企業の前提に疑義がある状況にある企業の現状を詳細に分析し、提出された「事業計画」と現状の課題との関係を検討したうえでの結果を検討する。
- ・「継続企業の前提」に関する文献レビューを行い、さらに企業再生や企業リスクなど企業活性化に関連する文献を研究し、研究テーマに幅を持たせる。

(文責：菅原智久)